

受験心得

徐珺

亜細亜友之会外語学院で一年間の学習生活が終わりました。学校の先生方々のご指導の下で私は自分が入りたい大学院に合格できましたので、とても感謝しています。ここで後輩の皆さんに受験勉強及び生活の経験を共有したいと思いますので、この文章を読んで頂く学生にお役に立てればと思います。

私は、中国美術学院卒業後に留学にきました。大学の専攻は実験技術で、色々なメディアを融合して人間と社会の相互関係を研究し芸術化するものです。来日前は、約一年半位会社で社員として働き、また、一年くらい独立芸術家として創作したり、友達と工作室を作って創作したりしていました。これらの経歴は私の日本での生活に大きな影響を及ぼしました。来日してから私は単に学生の気持ちで人と接するのではなく、自分は大人として、また自分の責務として考えるようになりました。幸運が来るのを待つのではなく、生活または学習において全てに全力を尽くすようにしています。

学習の面においては、専攻の学習と日本語の学習を別々でやる学生もいますが、私はできる限り、両方を融合して勉強するようにしています。こうして効率を高めて、自分の専攻をもっと時間をかけて勉強することができました。来日する前は、自分の日本語はN2レベルでしたが、来日してから自分の日本語の会話力や作文力はゼロに近いことに気づきました。しかし、一年内に各方面において大幅に進歩することが不可能です。少なくとも、私のような芸術以外の科目があまり得意でない学生にとっては難しいです。

従って、まずはしっかりと目標を定めて自分で学習環境を作ったほうがよいと思います。聴解においては、自分は常にテレビをつけたままにしていますので、ニュースを聞くことで、時事がわかると同時に、日本語の聞き取りの練習もできます。またエンターテイメント番組やNHK番組をみることで沢山の専門用語や芸術に関することも勉強できます。読解に関しては美術に関する日本語のインターネットページを読んだり、神保町で美術に関する古本を買って読んだりしていました。古本に関しては、価格が安いだけでなく、想像以上に面白いことと出会うことができます。古本または雑誌の中で自分の専攻と関係のあるページがあったらコピーし整理するようにしており、大学院入試前は一冊の本程度の厚さにコピーしました。これによって自分の読解力を高めることができただけでなく、論文を作成するときもいい題材になります。会話の面においては日本人の先生や友達との交流がとても重要です、自分が表現したいことを積極的に表現し、自分の専攻、考え方等を話します。同じことを違う人と話したら、自分の日本語がますます流暢になります。最後に、大学院面接の時に、面接の下書きは用意していましたが、教授が質問したことは全部回答できました。何故なら、教授が質問したことは日常で日本人と話したことがあるからです。日常会話においては全てのことが流暢に答えられたわけではありませんが、自分の専門については比較的話しやすいです。

後は、芸術専攻の学生に対するアドバイスとして、日常の展示会をちょこちょこ見に行くことです。展示の評論やコメントを読むことです。こうして日本芸術界の動向を把握することができると思います。創作においては画材、画布、材料などは東京の世界堂やホームセンターなど暮里の絹維街で購入できます。電子機材に関してはレンタルできるサイトがありますので、レンタルするほうが便利です。

受験準備中に亜細亜友之会外語学院の先生方は私を大いに助けて下さいました。出願から大学院の入学手続きまで、一連の作業においては細かく私の出願の資料をチェックして

下さったり、手続きに不備があると大学院に言われた時は大学院に電話して聞いて下さったりしていました。とても感謝しています。また、亜細亜友之会外語学院の先生が入試前一対一面接練習や研究計画書の修正もして下さいましたので、これはありがたいことです。皆様はぜひ亜細亜友之会外語学院でこの機会をよく利用して下さい。

自分の努力や先生の指導の下で、私は国立東京芸術大学や武蔵野美術大学や多摩美術大学、三つの大学院に合格しました。

生活の面においては、私は学校から徒歩 15 分離れたところに住んでいました。家賃は水道電気代を含めて 4 万円前後です。食事については最初の半年は自炊していましたが、受験日が近づく後半の半年はとても忙しく、午前中は日本語学校、午後は塾、夜 10 時に家に帰ってすぐ寝るといった感じです。外食していましたので、食事の費用が高くなりましたが。ストレスのせいか、体が病気になりがちでした。これから進学する皆さんは勉強すると同時にぜひ体を壊さないように注意して下さい！

ここで、亜細亜友之会外語学院の先生方々が私に日本学生支援機構発行の「文部科学省外国人学習奨励費」の受給予約者として推薦して頂いたことをとても感謝しています。ありがとうございました。

以上は、私の亜細亜友之会外語学院での進学経験です。ここで私を応援して下さった家族と先生方に再度感謝の意を表したいと思います。

